令和７年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 浦和別所 小学校 ）　　学校番号　０１０　　【様式】

| | |
|---|---|
| 学校教育目標 | すすんで学ぶ子　あいさつができる子　つよい体をつくる子 |
| 目指す学校像 | 保護者・地域と絆を深め、親しまれ、信頼される学校 |

| | |
|---|---|
| 重点目標 | １　確かな学力・体力の向上、自立した行動ができる児童の育成<br>２　安心・安全な学校に向けた、子どもに寄り添う生徒指導・教育相談の充実<br>３　教育環境の整備と開かれた学校づくりの推進及び家庭並びに地域との連携強化<br>４　安全で清潔な環境の整備による安全・安心な学校づくり<br>５　教職員の指導力向上と働き方改革の意識の醸成 |

※重点目標は５つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 達成度 | | | |
|---|---|---|---|
| | A | ほぼ達成 | （８割以上） |
| | B | 概ね達成 | （６割以上） |
| | C | 変化の兆し | （４割以上） |
| | D | 不十分 | （４割未満） |

| 学校自己評価 | | | | | | | | 学校運営協議会による評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度目標 | | | | | 年度評価 | | | 実施日令和８年２月６日 |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 |
| 1<br>学びの質の向上に関する取組 | ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語・算数ともに全国、市平均と比べて良好な結果である。<br>○学校評価（児童）において「学習が楽しい」の肯定的な回答をした児童の割合は 86％であった。<br>〈課題〉<br>○児童が「自立した学習者」になるよう、自ら課題を発見し、学習方法や発表方法を考え出したり選んだりする個別最適な学びへの取組については、協働的な学びと一体的に推進する必要がある。<br>○個別最適な学び、協働的な学びに必要なICTのスキルを児童に身に付けさせる必要がある。 | ・自ら学び、考え、判断し、よりよく問題を解決できる子の育成 | ①　各教科において問題解決場面を取り入れ、児童自ら、学習のめあてや学習方法、発表方法について、自己選択、自己決定、自己評価の拡充を図る。<br>②　学びのポイント「じ・し・や・ク」の視点を踏まえた授業実践を行う。 | ①　学校評価（児童）「学習が楽しい」の肯定的な回答 90％以上（前年度 86％）を達成できたか。<br>②　学校評価（児童）「授業の内容がよくわかる」の肯定的な回答 95％以上（前年度 95％）を達成できたか。 | ①　評価指標（児童）「学習が楽しい」の結果は、肯定的な回答が昨年度86％から今年度86％とあまり変化がなかった。<br>②　評価指標（児童）「授業の内容がよくわかる」の肯定的回答は、93％で、昨年度の 95％と大きな変化はないが、高い水準を保っことができた。 | B | ①今後もすべての教科において、自分の考えをしっかりともち、他者に伝えていく機会を意図的に取り入れた授業実践を行っていく<br>②振り返りの充実により児童自身が成長を感じられるようにする | ・授業参観の際に、自由進度学習の様子を見て、児童の習熟度や塾に通っている、いないの違いがあり、友だち同士の教え合いに格差が生じていると感じる部分があった。とくに、高学年の授業では、どの児童でも取りこぼしのないようにして欲しい。<br>・ＩＣＴ授業の発表は、子どもの自己肯定感を高める要素となっている。 |
| | | ・豊かなかかわり合いをはぐくむために、特色ある教育活動（浦和別所小のめざす子ども像「べっしょのよい子」）の実践 | ①　各教科において、友達と対話し、自分の考えを発表する場面や協力して一つの課題に取り組む等の協働的な学びの場面を意図的に取り入れた授業実践を行っていく。<br>②　日常的に学習用タブレットにある教材（Teams、Canva、スタディサプリ等）を活用していく。 | ①　学校評価（児童）「授業では、よく話合い活動をして、友達と意見交換をしています」の肯定的な回答 90％以上（前年度88％）を達成できたか。<br>②　学校評価（教職員）「ICTを授業に活用」に関する項目の肯定的な評価が 95％以上（前年度 92％）、（保護者）95％以上（前年度 92％）を達成できたか。 | ①　評価指標（児童）「話し合い活動」の結果は、肯定的な回答が、昨年 88％から今年 88％と大きな変化はなかったが、ICTを活用して考えを共有する機会は、定着してきている。<br>②　評価指標「ICT を授業に活用」の結果は、教職員の肯定的回答が 93％、保護者は、93％だったが、参観や日常の児童の様子から活用の様子が伝わったことが考えられる。 | B | ①今後も、授業の中で一人一台端末を活用した自由進度学習等の個別最適な学びの機会を設定し、実践していくが、学びの質の向上を目指し、さらに改善を図っていく。<br>②授業公開等で保護者にも活用している場面を見てもらう機会を増やし、活用の意図についても懇談会で説明していく。 | |
| 2<br>子どもの発達や心のサポートに関する取組 | 〈現状〉<br>○学校評価（保護者）「楽しく学校生活を送っている」94%、「子どもたちと真摯に向き合っている」94%と良好な結果であった、<br>○児童や保護者の困りごとや悩みごとについて、個人面談やさわやかデーを活用し、SC や SSW への相談体制を整えるなど、組織的に丁寧に対応をしている。<br>〈課題〉<br>○Sola るーむを開設し、運用しているが、児童や保護者のニーズに対して、十分な対応はまだできていない。<br>○心と生活のアンケート結果を基に、昨年度、担任と教育相談を実施した子どもの割合は 17.6％で、悩みや不安を抱えている子どもが一定数いる。 | ・児童主体のいじめ防止対策の推進 | ①　児童会を中心に児童が主体となったいじめ防止対策に取り組む。<br>②　いじめ防止に対する取組、アンケート、定期的な面談、道徳の授業、校長講話、生徒指導部会等、の確実な実施 | ①　児童が主体となったいじめ防止に対する取組が実施できたか。<br>②　年間指導計画に基づく道徳指導の確実な実施、いじめ防止に関する校長のよる講話、学校だよりへの掲載 | ①　児童会が主体となって、いじめ防止につながる取組としてあいさつ運動（あいさつバトル、あいさつカードの配布）を積極的に行った。<br>②　道徳授業の確実な実施、保護者への公開、校長講話、学校だよりへの掲載を実施した。 | B | ①　児童会が主体となった取組を、全校の児童に広げていけるよう、改善を図っていく。 | ・家庭におけるあいさつが少ない。保護者同士でもあいさつができる地域づくりのお手伝いをしたい。 |
| | | ・一人ひとりの教育的ﾆｰｽﾞに応じた支援体制の確立 | ①　Solaる一むの安定的な運用による児童の居場所の確保<br>②　毎月1回の教育支援・相談に係る校内委員会を実施し、内容について学年会等で資料を共有し、全教職員で共通理解・共通行動をとれるようにする。<br>③　毎月1回、第1金曜日に保護者、児童を対象に「さわやかデー」設定する。 | ①　Sola る一むの開設と保護者通知<br>②　学校評価（教職員）「児童理解、きめ細やかな指導」に関する「そう思う」の回答 40％（前年度 38％）を達成できたか。<br>③　学校評価（保護者）「児童理解、きめ細やかな指導」の肯定的な回答 93％（前年度 90％）以上を達成できたか。 | ①　Sola る一むの開設と保護者通知が確実に実施できた。<br>②　評価指標（教職員）「児童理解、きめ細やかな指導」の「そう思う」の回答が、昨年度の 38％から 62％と大きく上昇した。<br>③　同じ評価指標（保護者）の肯定的な回答は。昨年度の 88％から今年 91％と3％上昇した。 | A | ①　月1回の教育支援・相談に係る委員会を実施し、必要事項については、全教職員で共通理解を図る。<br>②　定期的に教育相談に関する校内研修を行い、しっかりと対応できるスキルを全教職員が身に付けられるようにする。 | |
| 3<br>地域とともにある学校づくりに関する取組 | 〈現状〉<br>○昨年度、学校運営協議会において、目指す児童の姿について共有するとともに、「学校・家庭・地域が連携して取り組む『安全な登下校』」について熟議を行い、通学路の一部変更を行い、保護者に向けて協力依頼の手紙を配付した。<br>〈課題〉<br>○今年度は、学校運営協議会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域等に広め「学校・家庭・地域が連携して、あいさつ運動を行う等、さらに、取り組めることを検討し、実行していく必要がある。 | ・目指す児童像について学校・家庭・地域での共有と連携 | ①　年に3回の学校運営協議会を開催し、熟議で決定したことを保護者や地域に発信し、実際に取り組む<br>②　HPに教育活動の様子を掲載し、原則1日に1回更新し、発信する。 | ①　学校運営協議会で決定したことを保護者や地域に発信し、実際に取り組むことができたか。<br>②　HPに教育活動の様子を原則1日に1回更新し、発信できたか。 | ①　学校運営協議会に安全委員会の児童が参加して、「110 番の家」を周知する取組について、熟議することができた。3 学期は、各立場で実践して行く予定である。<br>②　日々の教育活動の様子について、HPにて毎日発信することができた。 | A | ①今後も学校運営協議会に児童との協働活動を取り入れ、実践していく。<br>②今後もＨＰや学校だよりを活用して児童の様子を発信していく。 | ・今回の「１１０番の家」を周知するための取組から、児童が地域を知り、活動が地域に広まることで、地震等の災害時に役立つ。<br>・自治会は高齢化しているので災害時に頼りになるのは中学生。小学校だけでなく、中学校とも連携していきたい。 |
| | | ・学校行事の公開、地域主催の行事の実現 | ①　授業公開や行事について、内容を精選しながらも公開し、児童や職員の様子をよく見てもらう。機会を設ける。<br>②　PTAや育成会主催の行事を学校も連携をして取り組み、児童の体験活動へとつなげていく。 | ①　学校評価（保護者）「地域とともに開かれた学校教育を展開している」と回答する割合が 95％以上（前年度 93％）を達成できたか。<br>②　PTAや育成会主催の行事を学校も連携して開催できたか。 | ①　評価指標「地域とともに開かれた学校教育の展開」について、肯定的な回答が 94％と高い評価が得られた。<br>②　PTAや育成会主催の別所小まつりやソフトバレーボール大会を連携して開催することができ、多くの児童が参加した。 | A | ①今後も保護者や地域の方が児童の様子を見られる授業公開や行事を行っていく。<br>②すくさぽのさらなる活用を目指し、全学年の学習等の活動にうまく取り入れていく。 | |
| 4<br>教育環境の整備に関する取組 | 〈現状〉<br>○学校の安心に係る学校評価アンケート項目「学校は施設・設備の管理が適切に行われている」（保護者）の肯定的な評価は、88％となっている。<br>〈課題〉<br>○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが課題である。 | ・児童が安心して学び、生活しやすい環境づくり | ①　危険箇所等の早期発見・改善に向けて、毎日朝・夕に目視による校舎内外の巡視を実施する。修繕箇所を確認したらすぐに教頭、事務職員や教育委員会学校施設管理課と連携して、対応にあたる。<br>②　教職員事故防止のため、学期に1回以上の研修を行い、教職員全体の危機管理意識の向上を図る。 | ①　学校評価（保護者）「施設・設備の管理が適切に行われている。」と肯定的な回答 90％以上（前年度 88％）を達成することができたか。<br>②　修繕が発生してから3日以内に対応について決定し解決を図ることができたか。 | ①　評価指標（保護者）「施設・設備の管理が適切に行われている。」の結果は、肯定的な回答は、91％と高い評価が得られた。<br>②　修繕が発生してか3日以内に対応について決定し、解決を図ることができた、 | B | ①今後も毎日の点検、定期的な安全点検を行っていく。<br>②教職員事故防止のための研修を継続して行い、重要な確認事項はダブルチェックを行うなどの体制を整えていく。 | ・校庭改修中、子どもたちはなかなか外で体を動かせずにかわいそうだが、改修が終わったら、その分、思い切り遊ばせてあげてほしい。 |
| | | ・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成、環境整備 | ①　児童会の児童を中心「浦和別所小の登下校のきまり」、「安全な生活」について児童自ら考え、話し合い、決定、実行する。 | ①　児童会の児童を中心とした児童主体によるルールを作成し、実行できたか。 | ①　児童会の児童を中心に、あいさつキャンペーンを行い、登校の安全について、全校児童に呼び掛けることができた。 | B | ①児童会の児童を中心とした活動内容をあいさつ、登校以外にも範囲を広げていく。 | |
| 5<br>教職員のキャリア形成に関する取組 | 〈現状〉<br>○第5・6学年において教科担任制を導入し、担当する教科に限って教材研究することで、専門的に児童が学習を取り組めるようになっている。<br>○今年度は、学校課題研修において、各教科に枠を広げ、学びのポイント（じ・し・や・ク）の視点に基づく授業改善について研修を進めていく。<br>〈課題〉<br>○各教科においてICTを活用しているが、児童にとってより学習効果の高まる活用について検討していくことが必要である。<br>○学校課題研究における授業実践を重ね、一人ひとりの授業スキル向上を図っていく必要がある。<br>○教職員の時間外在校時間が、月平均36時間であり、勤務時間内に教材研究や事務作業等に終えられるよう改善していく必要がある。 | ・目指す学校像の実現に向けて、教職員一人ひとりが力を発揮しできる体制づくり | ①　全ての教職員が個別最適な学び,協働的な学び関する授業実践を行い、まとめ教職員同士が共有する機会を設ける。<br>②　どの教員も同じようにICTを使えるよう、エバンジェリストやICT支援員を講師に、研修を定期的（学期に1回以上）に行う。 | ①　学校評価（教職員）「ICTを授業に活用」に関する項目の肯定的な評価が 95％以上（前年度 92％）達成できたか。<br>②　教職員一人ひとりが、授業実践を行い、まとめ、教職員同士で共有する機会を設けられたか。 | ①　評価指標「ICT を授業に活用」の結果は、教職員の肯定的回答が 93％であった。<br>③　ICTの教職員研修を、1学期に3回、夏季休業中に1回実施した。<br>③　外部講師を招き、探究の時間、カリキュラムマネジメントの充実に関する講話を聞く機会を設けた。 | B | ①ＩＣＴの活用について、だいぶ定着してきたが、授業の質の向上につながる効果的な活用方法について、さらに研究していく。<br>②カリキュラムデザインマップを年間を通して、見直し、充実を図っていく。 | ・社会変化が速く、学校の対応も大変な状況だが、基礎教育の定着を目指し、考える力を子どもたちにつけて欲しい。 |
| | | ・生き生きと働き続ける教職員集団づくり | ①　カリキュラム・マネジメントの充実や日課表の見直し、スクリレの導入、集金業務の改善等を行い、教職員の資質向上を図る研修の時間や授業の準備に充てられるようにしていく。（通年）<br>②　配慮を要する児童への対応等、支援が必要な事項において、複数人で対応できるよう体制を整え、進捗状況について、毎月確認する。 | ①　教職員の時間外在校時間を昨年度と比較して1割以上減少させる。（前年度平均、月 36 時間）<br>②　学校評価（教職員）「チームワークよく教育活動を行っている」に関する「そう思う」の回答 40％（前年度 33％）を達成できたか。 | ○教職員の時間外在校時間が平均30時間となり、昨年度（11月末までの集計）より、2割減少させることができた。<br>○学校評価（教職員）「学校教育目標の具現化」「チームワーク」の項目でA評価43％を達成することができた。 | A | ①配慮を要する児童への対応等、複数人で対応できる体制を継続して整えていく。<br>②学校ＤＸ部を中心にさらなる業務改善を図り、余白を生み出すことで、教材研究等の充実につなげていく。 | |